

## 事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月31日
2次評価日（課長等）	2年3月31日

1 事業名	地域公共交通活性化再生総合事業	コード	14101
-------	-----------------	-----	-------

2 担当部課	部等 企画政策部	課等 企画課	作成者 味澤 勝一
--------	----------	--------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	快適な生活を支え、住み続けたいまち		
		政 策	都市基盤の整備	施 策	幹線道路と交通網の整備
		予算科目	企画事務費	業務委託	一部委託
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	あり
		根拠法令	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	岡谷市地域公共交通総合連携計画に基づき、市民の公共交通の確保のため、シルキーバス、福祉タクシーの利用効率の向上を図る。		
目的	対象者	市民	
	意 図	持続可能な公共交通の構築を目指す。	

5 事業の実施内容	*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
	<p>4月1日 岡谷市地域公共交通活性化協議会委員委嘱  5月15日 長野県公共交通活性化協議会（長野県庁）  6月12日 シルキーバス利用促進ティッシュ配り（岡谷駅）  6月19日 2市1町スワンバス担当者会議（諏訪市役所）  6月21日 茅野市・原村地域公共交通活性化協議会出席（茅野市役所）  6月25日 令和元年度第1回岡谷市地域公共交通活性化協議会開催  （国への補助申請に伴う地域内フィーダー系統維持確保計画の協議）  6月28日 地域公共交通確保維持改善事業認定申請  7月31日 2市1町スワンバス担当者会議（諏訪市役所）  8月26日 2市1町スワンバス担当者会議（諏訪市役所）  9月8日 岡谷市地域公共交通活性化協議会委員委嘱  10月1日 2市1町スワンバス担当者会議（諏訪市役所）  11月1日 2市1町スワンバス担当者会議（諏訪市役所）  11月8日 諏訪市地域公共交通協議会（諏訪市役所）  （アルピコ交通㈱のスワンバス外回り線事業撤退及び諏訪交通㈱への移管に関する協議）  12月17日 2市1町スワンバス担当者会議（諏訪市役所）  1月17日 職員による乗降調査実施  2月6日 スワンバス利用促進ティッシュ配り（岡谷駅）  3月18日 令和元年度第2回岡谷市地域公共交通活性化協議会開催  （おでかけバス導入及び諏訪湖周スワンバスの国への補助申請に関する協議）</p>		
前年度の課題への対応	各路線の変更及びダイヤ改正の検討を行った。 スワンバスの運賃見直しに向け、2市1町スワンバス担当者にて検討した。		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度				
	区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 活動指標（指標名）	地域公共交通活性化協議会開催回数				単位 回
	実績値	1	1	2	
	*指標の説明	協議会を開催し、連携計画に沿った検討を重ねる。			
② 成果指標（指標名）	シルキーバスの1日あたりの利用者数				単位 人
	目標値	404	404	404	404
	実績値	374	367	342	
	達成度	92.6%	90.8%	84.7%	
	*指標の説明	シルキーバスの利用者増減			
*目標値の設定方法の説明	連携計画の目標値：1日当たりの利用者数404人を目標とする。				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

補助金負担金名	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	14,000	24,500	28,000	70,000
経常経費	14,000	24,500	28,000	70,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
補助金負担金名	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	3,200,000	3,200,000	3,200,000	3,200,000
正規職員の人数(人)	0.40	0.40	0.40	0.40
③ 合計コスト(①+②)	3,214,000	3,224,500	3,228,000	3,270,000
前年度比		100.3%	100.1%	101.3%
財源				
一般財源	3,214,000	3,224,500	3,228,000	3,270,000
内訳				
特定財源	0	0	0	0
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	3,214,000	3,224,500	1,614,000	
前年度比		100.3%	50.1%	
⑤ コストに関する補足説明	協議会開催回数の増による			

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額 割合	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

低い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。		0
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 93.2%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 84.7%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <p>平成23年10月から平成26年9月までの実証運行を受け、利用実績と乗降調査をもとに、JR等の接続を重視し通勤通学時間帯及び公共施設等利用者に配慮しつつ、将来的な財政負担を考慮した路線及びダイヤ編成を行い本格運行に移行してきたが、事業収支率からも運営は厳しい状況が続いている。収支率の目標達成には路線の大幅な削減が必要となるが、利便性の維持が難しくなるため引き続き検証が必要である。</p>	
	改善方法	<p>(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運賃改定に向けて引き続き検討・調整を進める。(スワンバスとの兼ね合いもあるので、2市1町で足並みを揃えて進める。)</li> <li>・利用状況の検証を行なうとともに、利用促進に向けた啓発PRに努め、市民への更なる定着を図る。</li> </ul>
	改善開始時期	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	C
-----------	--------	--	---